

## 教育公務員のEmpowerment(能力強化)を考える

－ IT活用で教育公務員の生産性向上を－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. すべての教育公務員は、IT技術の習得(ワード、エクセル、メール)を…ITインストラクターの導入・育成
  - ① ITインストラクターとして、企業の事務職経験者を「学校ボランティア」として大幅に導入すべし。
  - ②全員ができるようになるまでパソコン(IT)講習会を。
  
2. パソコンを1人に1台持たせ、ネットにつなぐ
  - ①インターネットの構築
  - ②セキュリティーの構築
  - ③パソコンの台数が少ないこと、ソフトの種類が不十分なことが原因で、作業の効率が民間の何十分の一ということも多い。
  - ④今どき「一太郎」を使っている民間会社は、日本中に一社もない。それなのに、なぜ教育公務員だけが「一太郎」を使い続けるのか。
  
3. パソコンを最新モデルに買い換える
  - ①新しいモデルほど性能がよい。値段も安い。セキュリティー対応もよい。
  - ②パソコン関係の消耗品(プリンターやトナー)の購入予算化を。プリンターの数、紙やトナーが不足しては作業の効率が上がらない。作業の効率を上げるには、最低でも2人に1台のプリンターが必要。部署に1～2台、部屋に1～2台では余りにも少なすぎる。
  - ③これらを予算化すること。「人件費」か「パソコンの購入」かの比較考量を。
  
4. 

<ol style="list-style-type: none"><li>①業務の全面見直し</li><li>②事業、事務作業の効率化</li></ol>	}	→	すべては作業の軽減のため。例えば、学校の先生の仕事は「教えること」とりわけ「学力の向上」。これにすべてのエネルギーを集中させるべし。
<ol style="list-style-type: none"><li>③民間では、すでに10年以上前から導入している。</li><li>④サービス産業の生産性向上へ(教育のような公共サービスも、事務部門はサービス産業と考え、生産性向上に取り組むべし)。</li></ol>			
  
5. 教育事務職員の労働生産性の大幅向上が、教育改革のカギ
  - ①学校の先生の事務量を大幅に減らすことが可能になれば、世界一少ない日本の先生方の週当たり授業時間数を増やすことができる。
  - ②OECD平均並に先生の週当たり授業時間数を増やすことができれば、人件費を増やすことなく、1クラス当たりの平均人数を現在の2/3に減らすことができる。

以上